

今、何の病気が流行しているか！

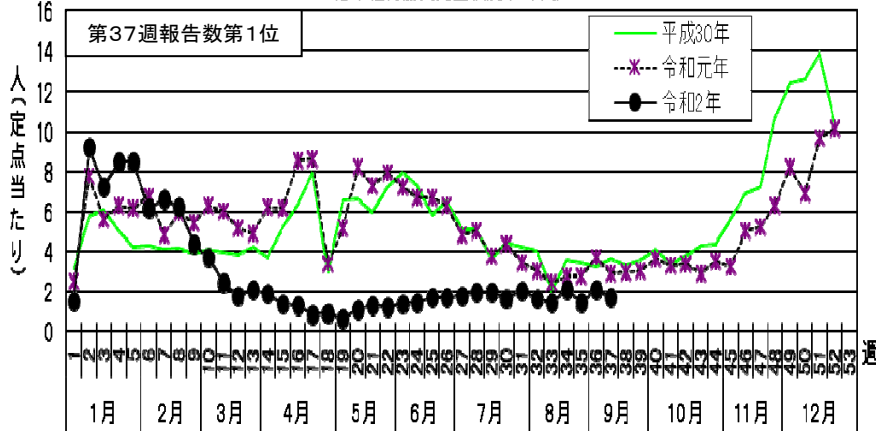
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年9月7日（月）～令和2年9月13日（日）〔令和2年第37週〕の感染症発生状況

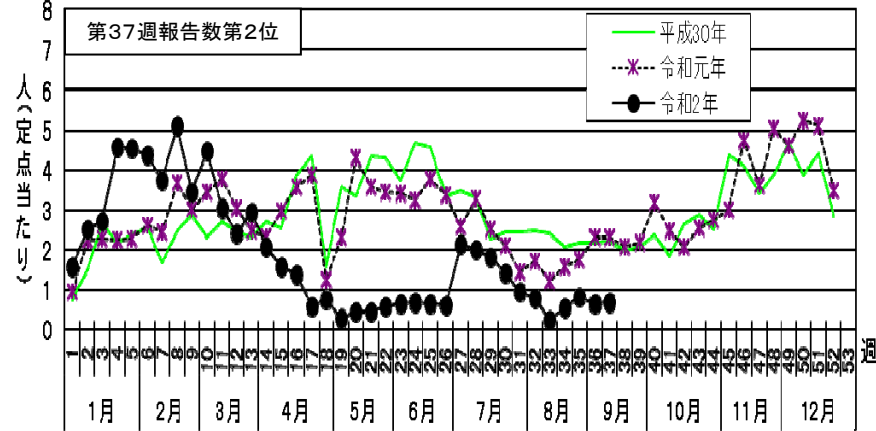
第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.68人と前週（2.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.70人と前週（0.65人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.70人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



新型コロナウイルス感染症から高齢者を守りましょう！

川崎市における令和2年第37週（9月7日～9月13日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は89件と、依然として多い状況が続いています。

緊急事態宣言解除前の報告数は279件で、解除後と比較して少なかったものの、致死率は8.2%でした。特に70歳代は21.1%、80歳以上は50.0%にも上りました。緊急事態宣言解除後の報告数は1061件と大幅に増加しましたが、致死率は0.8%にとどまっています。しかし70歳代は8.1%、80歳以上は17.9%と高齢者で高い傾向は変わりません。

敬老の日が近づき、帰省をする方もいらっしゃるかと思いますが、体調が悪い場合は中止若しくは延期するなど、高齢者を守るための配慮をしましょう。

親族が大勢集まるの会食やカラオケなどでの3密にも注意しましょう。



川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別発生状況(令和2年)

